

清潔で美しいまちづくり

最近、高松を訪れる外国人が急速に増加しています。そして、来訪された多くの方から、「あなた方の都市は本当に美しい」というお褒めの言葉をいただきます。4月末に開催されたG7香川・高松情報通信大臣会合の各国代表団の方々も一様にそのような感想を漏らしていました。

日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内海の穏やかな多島美や屋島が自然景観として美しいということもあるでしょう。また、国の特別名勝にも指定されている栗林公園の一步一景と言われる庭園美は、世界に自慢できるものだと思います。ただ、それだけではありません。景観美に加えて、特に外国の方が感心されるのが、よく手入れされて美化されている街の環境です。

このような環境は一朝一夕に生まれたものではありません。高松市は、昭和54年に「環境美化都市宣言」を行い、翌年の昭和55年に策定された「高松市民のねがい」の最初の項目には、「自然を愛し 清潔で美しいまちづくり」が掲げられています。共通の目標を掲げながら、長年にわたり積み重ねられてきた市民と行政と企業、団体などとの共同作業が、今日の評価につながっているのです。

高松市では、毎月第1木曜日をサンポート高松・中央通り等一斉清掃日として、沿線にオフィスを構える企業などの協力も得て清掃活動が行われています。さらに、行政と地域住民が一体となって不法投棄ごみの一斉清掃活動を行う屋島クリーン大作戦や高松エアポートクリーン作戦などのイベント仕立ての取り組みも全国に先駆けて行われてきました。加えて、平成20年から毎年10月の第4日曜日に行われている「高松クリーンデー“たかまつきれいでー”」では、衛生組合などが中心となり、言わば市内丸ごとクリーン大作戦が行われます。これに参加する市民の数は、約4万人から、多い年で約5万人に上るといえます。また最近では、G7情報通信大臣会合や瀬戸内国際芸術祭などの大きなイベントの開催に合わせて、「おもてなしクリーン作戦」というものも随時行われています。

一方で、まだまだたばこのポイ捨てや不法投棄などは後を絶たず、課題は残されています。活動を継続しながら「清潔で美しいまちづくり」を次の世代につなげていくことが大切です。